

平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金
(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 (健やか次世代育成総合研究事業))
「健やかな親子関係を確立するためのプログラムの開発と有効性の評価に
関する研究 (H29-健やか-一般-004)」 分担研究報告書

精神疾患保護因子としての健やか親子 5 つのポイントについての研究

研究分担者 齋藤尚大 (横浜カメラアホスピタル)

研究要旨

研究目的

健やかな親子関係を育むのに重要な 5 つのポイントが親または子の精神疾患に与える影響について、文献調査を行った。

研究方法

5 つのポイント「地域とつながっている家族」、「親子のコミュニケーションが良好」、「子どもを傷つけない」、「親子の役割が明確」および「親子で価値観を共有できる」と親子の精神疾患との関連に関する文献を収集した。

研究結果

上記の 5 つのポイントそれぞれについて、精神疾患の予防あるいは改善効果を示唆するエビデンスが収集された。

結論

健やかな親子関係を育むのに重要な 5 つのポイントは、親あるいは子の精神疾患の予防あるいは改善効果も関連することが示された。

A. 研究目的

昨年度は健やかな親子関係を育むのに重要な5つのポイントを抽出し、子の成育に対する増進効果および問題行動の抑制効果に関するエビデンスを収集した。本年度の研究では、5つのポイントが親また/あるいは子の精神疾患に与える影響について調査した。

B. 研究方法

健やかな親子関係を育むのに重要な5つのポイント「地域とつながっている家族」、「親子のコミュニケーションが良好」、「子どもを傷つけない」、「親子の役割が明確」および「親子で価値観を共有できる」と、親また/あるいは子の精神疾患の関係について、文献研究を行った。

C. 研究結果

1 「地域とつながっている家族」

- ・医療サービスとメンタルヘルスケアの効果的な利用は、ハイリスク家族を保護し、家族のレジリエンスを強める (Simon, 2005)。

2 「親子のコミュニケーションが良好」

- ・家族のつながりがあること、また余暇活動を一緒に楽しむことは、児童思春期の健康関連QOLの保護因子である (Otto, 2017)。

- ・子どもと頻繁に活動を共にする親は、外在化問題行動および少年犯罪から自分の子を守る (Hutchings, 2005)。

- ・親子のコミュニケーション改善を目的とする家族介入は、青少年の飲酒・

違法薬物使用や危険な性行為の改善に有効である (Hale,)。

- ・母親の関わりが高まると、反抗挑戦性障害の遺伝素因を中和する可能性がある (Li, 2017)。

- ・父親の活発で定期的な関わりは、子の行動面・経済社会的地位および認知に対し良い効果を示し、また感情的苦悩を予防する効果を示した (Sarkadi, 2008)。

3 「子どもを傷つけない」

- ・暖かさを示し敵意を余り表さない、養護的な育児は、子の反社会的行動および精神的苦痛の低さと関連する (Conger, 2002)。

4 「親子の役割が明確」

- ・自主性を認める子育ては、トゥレット症候群を持つ児童のうつ病および12歳~18歳のうつ病に対する保護因子である (Cohen, 2008; Yap, 2014)。

5 「親子で価値観を共有できる」

- ・暖かくまとまりのある家族の関わりの様式は、うつ病に罹患した親を持つ家族の最も重要な保護因子の一つである (Place, 2002)。

- ・家族に心理障害を持つ者がいる場合、安心できる家庭環境は、子が成長発達できる安全な避難所を与える (Greeff, 2006)。

6 その他

- ・良好な管理戦略があり、健康的で、両親のストレスが少ない家庭で生育することは、子の外在化問題のリスクを低くする (Brumley, 2016)。

- ・中等度の過保護に比べて、低いレベルの過保護は、非行の少なさと関連す

る。一方、高い過保護と中等度のそれとでは、非行に有意の差を持たない (van der Laan, 2010)。

D. 考察

今回の文献収集で、健やかな親子関係を育むのに重要な5つのポイントすべてで、精神疾患と関連するエビデンスを認めた。しかし、疾患単位との関連ではなく行動特性や状態像との関連に留まったポイントもあり、また親子双方の精神疾患への影響が見いだせなかった項目もあった。

Ingram RE et al. は、「脆弱性」と「レジリエンス」は「脆弱性連続体」の両極を成しており、脆弱性が高い状態では軽度のストレスで疾患を発症しまたストレスが強くなると疾患もより重症になること、一方レジリエンスが高い状態では非常に強いストレスがないと疾患に至らず、かつ程度は軽度となる可能性を説明している。この考えに基づけば、危険因子と精神疾患の直接の関連性に比べて、保護因子と精神疾患のそれはより希薄となることが予測され、エビデンス蓄積が困難になっているのではいかと推測される。

E. 結論

健やかな親子関係を育むのに重要な5つのポイントは、親あるいは子の精神疾患の予防あるいは改善効果とも関連することが示された。

今回の文献収集は系統的ではないため、今後さらにエビデンスを収集す

るために、系統的な調査を行う必要がある。また、今回収集されたエビデンスを、「健やかな親子関係を育む家族関係の調査」の分析に今後反映させていきたい。

文献

Brumley LD et al. Defining and distinguishing promotive and protective effects for childhood externalizing psychopathology: a systematic review. *Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol*, 2016 vol. 51(6) pp. 803-15

Cohen E et al. Locus of control, perceived parenting style, and symptoms of anxiety and depression in children with Tourette's syndrome. *Eur Child Adolesc Psychiatry*. 2008 Aug;17(5):299-305.

Conger RD et al. Resilience in Midwestern families: selected findings from the first decade of a prospective, longitudinal study. *Journal of Marriage and Family*, 2002:64, 361-373.

Greeff A et al. Resiliency in families with a member with a psychological disorder. *American Journal of Family Therapy*, 2006:34, 285-300.

Hale DR et al. A systematic review of effective interventions for reducing multiple health risk behaviors in adolescence. *Am J*

Public Health. 2014 May;104(5):e19-41.

Hutchings J et al. Parenting and the development and prevention of child mental health problems. Current Opinion in Psychiatry, 2005;18, 386-391.

Li I et al. Parental involvement as an etiological moderator of middle childhood oppositional defiant disorder. J Fam Psychol, 2017 vol. 31(6) pp. 659-67.

Otto C et al. Risk and protective factors of health-related quality of life in children and adolescents: Results of the longitudinal BELLA study. PLoS One. 2017 Dec 28;12(12):e0190363.

Place M et al. Developing a resilience package for vulnerable children. Child and Adolescent Mental Health, 2002;7, 162-167.

Sarkadi A et al. Fathers' involvement and children's developmental outcomes: a systematic review of longitudinal studies.

Acta Paediatr. 2008 Feb;97(2):153-8. Epub 2007 Dec 3.

Simon JB et al. Understanding and fostering family resilience. The Family Journal, 2005;13, 427- 436.

van der Laan AM et al. Serious, minor, and non-delinquents in early adolescence: the impact of cumulative risk and promotive

factors. The TRAILS study. J Abnorm Child Psychol, 2010;38, 339-351

Yap MB, et al. Parents' beliefs about actions they can take to prevent depressive disorders in young people: results from an Australian national survey. Epidemiol Psychiatr Sci. 2011 Sep 22;21(01):117-123.

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

I. 問題点と利点

特記事項なし

J. 今後の展開

引き続き健やかな親子関係に関するエビデンスの収集に努める。